

平成最後の大滝の秋を行く

——E13 東北中央自動車道(福島大笹生 IC～米沢北 IC 間)開通 1 周年——

大滝会特別会員 鹿摩貞男
(万世大路研究会)

はじめに

平成 30 年 11 月 4 日（日）、平成最後の秋となる大滝集落を巡ってきました。

また、この日は、E13 東北中央自動車(福島大笹生 IC^{おおざそう}～米沢北 IC 間 L=35.6km)が開通(S29.11.4)して丁度 1 年を迎えた日でもあります。午前中 1 周年を迎えたその E13 を通り米沢八幡原 IC まで行き、午後福島に戻って晩秋の大滝集落を楽しんできたものです。

ということで、今回は「大滝集落の秋」と併せて、開通 1 周年を迎えた E13 東北中央自動車(福島大笹生 IC～米沢北 IC 間)の様子について、若干の解説を付しながら写真を中心として報告する。

なお、大滝集落の概要については、別添参考資料「**大滝集落と集落内旧国道の変遷**」を参照されたい。

1. 大滝集落の秋

現在、旧大滝集落へは、国道 13 号大滝橋の手前から右折し 150m ほどのところでその大滝橋をアンダーパスして行くことができる。この道路は、旧西川橋まで 1.8km ほど続いていて、勿論それが旧国道 13 号(旧万世大路)であり、新国道開通後(S41.5.29)は福島市道長老沢線として認定されているものである。その区間は自動車交通が可能である(冬期除く)。

この区間内、旧葭沢橋から 100m ほど手前の通称吉田饅頭屋(まんじゅや)さん旧宅付近(現在更地)から旧宮内屋旅館(高野家、現在更地)付近まで、米沢の方へ向かって概ね 1.0km の範囲の中にかつて集落が存在したわけである。その集落の総称が大滝集落といわれるものである。

この集落には三つの地域がある。福島側からいくと、吉田饅頭屋さん付近(現在空き地、資材置き場)から旧大滝橋までが「葭沢(小字名)」^{よしざわ}地区、大滝橋から胡桃橋までが「大滝(小字名)」^{くると}地区、胡桃橋から旧西川橋までが「長老沢(小字名)」^{ちやうろうざわ}(通称胡桃平^{くるみだいら})地区である。

後で紹介していく集落の写真は特に断っていないけれども旧国道 13 号(国道 5 号、旧万世大路)、現在の福島市道長老沢線である。

(1) 葭沢地区

葭沢地区は、吉田饅頭屋さん付近(現在空き地、資材置き場)から旧大滝橋までである。

なお、国道 13 号大滝橋手前からの大滝集落入口付近の字名は「長老沢」となる。字長老沢は広範囲で、小川(河川名、1 級河川摺上川右支川)の北側に位置する集落終点側(旧西川橋付近)も字長老沢となる。(写真-1①～写真-4⑤)

* 注 : 以下の写真解説の宅地跡世帯主名は昭和 20 年代(および昭和 40 年代)頃のものである。



【写真－1①】 大滝集落入口 (旧国道 13 号、現福島市道長老沢線)、米沢側を望む。門扉は施錠されていない。出入り自由。



【写真－1②】 大滝集落入口、門扉前から福島側を望む。左上は E13 東北中央自動車、手前新大滝橋、奥大滝大橋。



【写真－2①】 吉田富蔵家(饅頭屋さん)跡地(左側)前付近から葭沢橋方向(米沢側)を望む。



【写真－2②】 吉田饅頭屋さん旧宅前付近から福島側を望む。



【写真－3①】 旧葭沢橋(S53.3 完、L=22.4m、W=6.7m)、福島側から望む。橋入口右奥は伊藤長三郎家跡地



【写真－3②】 旧葭沢橋、米沢側から望む。



【写真－3③】 小川(河川名、摺上川右支川)、
旧葭沢橋から上流側を望む。



【写真－3④】 旧葭沢橋(米沢側)付近から米沢側を
望む。



【写真－4①】 大滝「曲がり角」付近、米沢側を望む。
左赤岩道(救済道)入口。
赤岩道入口すぐは三坂三郎家跡地



【写真－4②】 「曲がり角」から旧葭沢橋方向(福島側)
を望む。右は赤岩道。
紅葉右付近が三坂家跡地



【写真－4③】 赤岩道入口付近から旧葭沢橋方向
(福島側)を望む。
写真中央道路右側は佐藤武雄先生宅
跡地



【写真－4④】 「曲がり角」から旧大滝橋方向(米沢側)
を望む。左側に大瀧水神が見える。



【写真－4⑤】 大瀧水神様

(2)大滝地区

大滝地区は、旧大滝橋から胡桃橋までである。この区間には、旧大滝分校や氏神の大滝山神社が含まれている。旧大滝橋の福島側にはかつて奥羽本線赤岩駅に通ずる赤岩道（別名救済道）があった（現在、途中の古屋敷付近まで通行可）。この地区が大滝の中心地となるのかも知れない。（写真－5①～写真－9④）



【写真－5①】 旧大滝橋（推定 S41 頃完、L=10.6m、W=6.3m）。米沢側を望む。



【写真－5②】 大滝川（小川右支川）、旧大滝橋上流を望む。



【写真－5③】 旧大滝橋、福島側から望む。
右奥の建物は大滝会事務所（旧ポンプ小屋）。
写真左奥の橋のたもとは榎木新松（新吉）家跡地、その奥の電柱間付近は木村要吉（義吉）家跡地および須田辰蔵（辰雄）家跡地、その道路向い側は太見吉佐（正一）家跡地



【写真－5④】 旧大滝橋、米沢側から望む。
正面奥、大瀧水神様。
写真右手前の橋のたもとは榎木家跡地、道路左側手前は須田儀平（和市）家跡地、須田家下の橋の手前左には大滝共同墓地への参道入口の細道が在った。



【写真－6 ①】 大滝記念碑・大滝分校(上)跡入り口付近から いら沢橋方向(米沢側)を望む。左側は大滝山神社参道。



【写真－6 ②】 大滝山神社参道。中央石碑「湯殿山」(明治36年建立)、鳥居はH25.8再建。



【写真－6 ③】 大滝分校(上)跡・大滝記念碑入り口から福島側大滝会事務局(左側建物、旧ポンプ小屋)を望む。ポンプ小屋から電柱付近は蒲倉家畑および旧宅跡地



【写真－7①】 大滝記念碑・大滝分校(上)跡入口。



【写真－7②】 大滝記念碑(S54(1979).10.14 建立)と副碑(平成元年(1989).5 建立)大滝分校教諭宿舎跡地に建立



【写真－7③】 旧大滝分校(下)跡、大滝記念碑付近から望む。



【写真－8①】 大滝分校(上)跡と大滝山神社



【写真－8②】 左から大滝山神社(明治 43 年頃建立、平成 18 年 10 月再建(遷宮))、釜神様(明治初期建立)、神社由来碑(H18.10 建立)



【写真－8③】 大滝分校(上)跡。
右端から大滝地区(写真－8④)、
防災センター(写真－8⑤)を望む。



【写真－8④】 大滝分校跡(上)から大滝集落大滝地区を望む。手前は大滝記念碑。



【写真－8⑤】 E13 東北中央自動車道防災センター
(大滝チェーン着脱場)。
大滝分校跡(上)から望む。



【写真－9①】 いら沢橋(S40.7 完、L=10.5m、W=5.5m)、福島側から望む。



【写真－9②】 いら沢橋、米沢側から望む。



【写真－9③】 写真手前、入イラ澤橋(S9.8 完、L=3.1m、W=6.0m)、路肩の雑草で低い高欄見えず。胡桃橋方向(米沢側)を望む。



【写真－9④】 胡桃橋付近から入イラ澤橋方向(福島側)を望む。

(3)長老沢(胡桃平)地区

ここで云う長老沢地区とは、胡桃橋から西川橋までのことで通称胡桃平と呼ばれている。「栗子新道画圖」(明治14年9月、米沢の絵師濱崎木^{はまざきもくりん}版画)によれば「胡桃平村」として3軒の家屋が描かれている。大滝集落発祥の地とも云える場所である。

大滝集落の人家があったのは旧宮内屋(高野家)付近の渡边角右衛門様旧宅までである。明治10年頃、その宮内屋(現在更地)、東隣りの中屋旅館(渡辺家、家屋現存無人)、近くに西村屋(半田家、詳細不詳)がありその3軒から大滝集落の歴史が始まったと伝えられる(『わが大滝の記録』)。(写真－10①～写真－12④)



【写真－10①】 胡桃橋（S11.3 完、L=15.0m、W=6.6m）、福島側から望む。右側の電柱右奥は二階堂盛吉家跡地



【写真－10②】 胡桃橋（くるみばし）、米沢側から望む。道路右側手前は後藤市太郎（健太郎）家跡地



【写真－10③】 小川、胡桃橋から下流を望む。



【写真－11①】 紺野一恣（兵蔵）家跡地（道路左側）付近から道路右の渡辺清治家旧宅（米沢側）を望む。



【写真－11②】 紺野家跡地付近から福島側を望む。左上側須田儀左衛門（信男）家跡地（白看板付近）、右の電柱の上側は三坂三郎（勇）家跡地（元・笹木家）、その上に山岸鶴蔵（巖）家跡地（須田家跡地の道路向い側）



【写真－11③】 渡辺清治家旧宅を米沢側から望む。



【写真－12①】 旧宮内屋旅館(高野幸治(英治)家)跡地(道路左空き地)から福島側を望む。左側建物は旧中屋旅館(明治天皇御小休所)。奥は渡辺清治家旧宅。道路手前右奥は渡辺角右衛門(和雄)家跡地



【写真－12②】 旧中屋旅館(渡辺要一(正義)家)を福島側から望む。渡辺要一(正義)家道路向い側は渡辺要七(智)家跡地



【写真－12③】 明治天皇御巡幸、大滝御小休所記念碑「鳳駕駐蹕之蹟(M41.9.12 建立)」。右側 S10.11 史蹟指定記念碑(S18.11 建立)



【写真－12④】 明治天皇御巡幸 M14.10.3、大滝御小休所記念碑「鳳駕駐蹕之蹟(M41.9.12 建立)」

（旧西沢橋付近～蛇体道）

長老沢地区の内、人家集落のなかった旧西沢橋付近についてはここに示す（共同墓地含む）。

（写真－13①～写真－14）



【写真－13①】 旧国道から3代目現国道13号西川橋（L=98.8m、W=8.0m、S39.9完）を望む。



【写真－13②】 2代目旧西川橋（L=8.5m、W=4.5m、大正12年完成）。廃タイヤの先。



【写真－13③】 旧西川橋付近から蛇体道・E13新西川橋を望む。
右上方杖ラーメン主構（しゅこう）・
拱台（きょうだい）は、現国道13号西川橋。



【写真－13④】 E13新栗子トンネル避難坑福島側坑口。手前新西川橋（H20.10完、L=77m、W=10.5m）。



【写真－14】 紅葉鮮やか、大滝集落共同墓地（現国道13号大滝第2トンネル福島側）。

2. 開通 1 周年を迎えた E13 東北中央自動車道

現在の交通状況については特に発表はないけれども好調に推移しているようである。

開通 1 ヶ月後の状況については、国土交通省福島河川国道事務所から発表があったので若干紹介しておきたい（平成 30 年 1 月 30 日）。

- 開通後 1 ヶ月の平均交通量は E13 で 10,100 台／日、国道 13 号で 2,300 台／日（開通前は 8,000 台／日）併せて福島～山形間の交通量が合計 12,400 台／日となった。これは、E13 開通前の国道 13 号の交通 8,000 台を 4,400 台（55%増）上回るものである。
- 山形県内の国道 13 号が 1,200 台／日・5%増（上山南 25,800→27,000 台／日）、東北中央自動車道（山形中央 IC～山形 JCT）では 200 台／日・4%増（4,900→5,100 台／日）となった。
- 東北道・国道 4 号（福島・宮城県境）及び山形道（宮城・山形県境）では交通量が減少した。
- 山形県置賜地域では観光入込客数が約 1.4 倍、福島市内では山形方面からの来訪者数が約 3.3 倍に増加した。

以下現況の写真である（一部 11 月 10 日撮影分を含む）。

(1) 福島県側

福島側は、福島大笹生 IC と、大滝集落入口で現国道 13 号と併行して走る E13 の工事名「新長老沢 4 橋」のうち現道から観察できる新大鍋橋（L=168m）・大滝大橋（L=201m）、新大滝橋（L=113m）3 橋、それから現道西川橋手前から観察できる E13（新）栗子トンネルと大滝トンネルについて示した。なお、福島市内（野田中学校付近）から眺望できる栗子連山についても参考を示しておいた。（写真－15①～写真－17③）



【写真－15①】 福島市側（野田中学校付近）から望む栗子連山旧杭甲嶽。右旧大杭甲・栗子山 A（地元呼称 1202m）、左小杭甲（1130m推定）



【写真－15②】 福島市側（野田中学校付近）から望む栗子連山、左栗子山 A、右栗子山 B（地理院呼称 1216.6m、一等三角点、栗子山）。



【写真－15③】 E13 福島大笹生 IC 入口付近(県道 5 号線(主)上名倉飯坂伊達線・フルーツライン)



【写真－16①】 E13 新大鍋橋(H28.1 完、L=168m、W=10.5m)。左下国道 13 号現橋「大鍋橋(S39.8 完、L=25.7m、W=8.5m)」



【写真－16②】 新大鍋橋(右側)と大滝大橋とのジョイント部。現国道 13 号から望む。



【写真－16③】 大滝大橋(H25.10 完、L=201m、W=10.5m)。左下国道 13 号現橋「長老沢橋(S39.9 完、L=40.8m、W=8.5m)」



【写真－16④】 E13 新大滝橋(左側)と大滝大橋、国道 13 号の現橋は大滝橋(H2.3 完、L=165m)。



【写真－16⑤】 新大滝橋(H28.1 完、L=113m、W=10.5m)



【写真－17①】 E13 新栗子トンネル (S27.3 完、L=8972m、W=9.5m) 福島側坑口



【写真－17②】 E13 栗子トンネル 福島側坑口。右は将来車線側・現在避難用トンネル(避難坑)(L=8,989m)。



【写真－17③】 左側 E13 大滝トンネル(H19.6 完 L=353 m、W=9.5m)
右国道13号大滝第1トンネル(S40.3 完 L=200m、W=8.5m)

(2) 山形県側

米沢八幡原 IC から国道 13 号に降り近くの桑山交差点から戻った。交差点付近からは、朝日連峰や蔵王連峰を望む事ができ、栗子連山が綺麗に望むことができた。(写真－18①～写真－20③)



【写真－18①】 E13 東北中央自動車・米沢八幡原 IC 出入口



【写真－18②】 八幡原 IC 入口を米沢側から望む。右上に栗子連山(仮称)が見える。



【写真－18③】 E13 東北中央自動車道 万世高架橋(H28.3 完、L=336m、W=11.5m)。国道13号沿い(下り側)FamiMa 米沢万世町桑山店前交差点付近から望む。



【写真－19①】 朝日連峰(朝日岳)・大朝日岳(おおあさひだけ)1870m。小国町～朝日町。FamiMa 前交差点付近から望む。



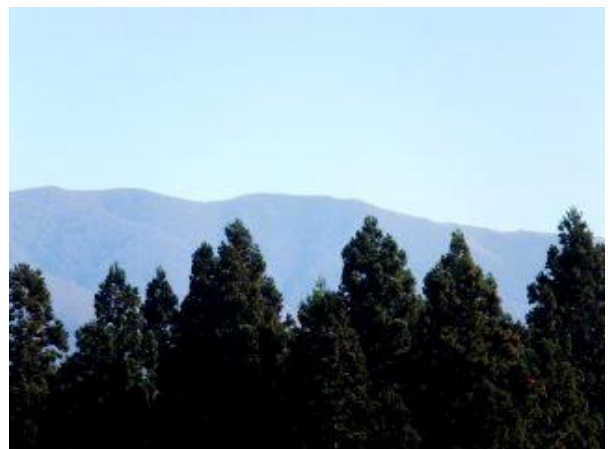
【写真－19②】 蔵王連峰(蔵王山)・熊野岳 1841m FamiMa 前交差点付近から望む。



【写真－20①】 米沢市から見る栗子連山。米沢八幡原 IC 入口付近から望む。中央栗子山 A、その左栗子山 B、右側小杭甲。栗子山 C 右側は前衛峰の奥。



【写真－20②】 旧杭甲嶽(左大杭甲:栗子山(地元呼称、仮に A))1202m。



【写真－20③】 栗子山(地理院呼称、仮に B)1216.6m(一等三角点、栗子山)。左端は前衛峰。

おわりに

大滝の秋の写真は午後遅くなってしまったため画像が若干不鮮明となっている。また、撮影場所もいつもと同じ所の印象であるが、平成最後の秋として記録に止めておくことも必要であろう。

大滝集落の環境維持も年々歳々難しくなって来ているけれども、この貴重な歴史的遺産と風景とを何時までも後世に伝えていきたいものである。

今回も大滝会HP管理人紺野文英様には写真編集、説明書きの監修等で大変お世話になりました。文末ですが衷心より感謝申し上げます。

次ページに「別添参考資料」を^{しる}記す。

大滝集落と集落内旧国道の変遷について

大滝集落について

大滝集落とは、国道 13 号（万世大路）を福島市市街地から米沢に向かい 20 km ほどの地点にあった旧信夫郡中野村（現在福島市飯坂町中野）の一集落のことで現在廃村になっている。

大滝集落は、明治 10 年頃万世大路（現在の国道 13 号）の工事基地（宿舎など）として始まり、明治 14 年（1881 年）10 月の開通後は宿駅として栄えたが、明治 32 年（1899 年）5 月の南奥羽鉄道（福島～米沢間、現奥羽本線）の開通に伴い衰退した。その後林産業などで定着し、最盛期（昭和 10 年 1 月）には 43 世帯 266 人を数えたけれども、昭和 51 年 9 月現在 7 世帯 34 人まで落ち込んだ。大滝部落はさらに、昭和 53 年（1978 年）10 月には 4 世帯 21 人にまで減少、組織的に村落として維持することが困難となり閉郷し廃村となった（S54.5 最後の一人離村）。

明治天皇は、集落内を走る栗子新道（のち万世大路と命名）開通式（M14. 10. 3）にご出席の後福島へ向かう途中、大滝の胡桃平（長老沢）地区中屋旅館（渡辺家）で御小休された。現在でも当時の家屋が残されておりその記念碑「鳳駕駐蹕之蹟（ほうがちゅうひつのせき）」（明治 41 年 9 月 12 日建立）がある。また、昭和 10 年 11 月には文部省史跡に指定されている（昭和 18 年 11 月に記念の石碑が建立され明治期石碑と併設）。

大滝集落内の旧国道 13 号（旧 5 号、万世大路）は、現在市道長老沢線となっている。

なお、旧住民の方々は、「大滝会」（昭和 54 年 10 月設立、木村義吉会長、会員約 120 名）を組織し、旧大滝地区の環境の整備、氏神大滝山神社の管理などをおこなっている。また大滝会は、沿線に点在する史蹟の発掘と保存を計ることを目的の一つとしている。

大滝集落について詳細をお知りになりたい方は下記サイト（何れも当大滝会 HP）を参照されたい。

【大滝集落の歴史】

大滝集落の歴史について詳細を知りたい方は『わが大滝の記録(PDF 版)』を参照されたい。

<http://ootaki.xsrv.jp/wagaootaki.pdf>

【大滝集落のその後の状況】

また、大滝集落のその後の状況については下記を参照されたい。

○『大滝集落に架かる橋』参考資料（解説）（平成 24 年 6 月）

<http://ootaki.xsrv.jp/hasisankou.html>

○『平成 24 年晩秋の大滝集落』（平成 24 年 11 月）

<http://ootaki.xsrv.jp/irori.html>

○『平成 27 年大滝会総会ならびに観桜会開催』報告（平成 27 年 5 月）

<http://ootaki.xsrv.jp/27kanoukai.html>

○『平成 29 年大滝会芋煮会・秋の大滝現況』（平成 29 年 11 月）

<http://ootaki.xsrv.jp/h29imonikai.html>

○『望郷 40 周年記念（平成 30 年） ふるさと大滝の集い』（平成 30 年 5 月）

<https://ootaki.xsrv.jp/40nenhokoku.html>

〔内容〕平成 30 年度定期総会・ふるさと大滝訪問・記念祝賀宴会の様様。

附録：「平成 30 年大滝の春 写真集」「大滝四季の歌 全歌詞」「駄賃付馬子唄」
「郷碑建立十年に賦す」

別添資料：「大滝山神神社（大山祇神社）について」「大滝記念碑について」】

集落内の旧国道の変遷について

大滝集落内の旧国道（万世大路）の変遷について関連分をも含めて簡単に紹介する。

- ・ 1881 年（明治 14 年）10 月 3 日 栗子新道（のち万世大路）開通する（L=48.3 km）
（福島～米沢間初めての荷牛馬車交通対応の道路、旧道相当の板谷街道は人・牛馬のみ通行可
で荷車は通行不可であった。）
起点：福島県信夫郡福島町 11 丁目 元標 （現在福島市上町）
終点：山形県南置賜郡米沢今町相生橋左岸 （現在米沢市相生町）
工事期間：明治 9 年（1876 年）11 月～明治 14 年（1881 年）9 月 （4 年 11 ヶ月間）
（ 福島県側：中野新道（二ツ小屋隧道等含む）L=29.8 km：M10.7～M14.9
山形県側：刈安新道（栗子隧道等含む） L=18.5 km：M9.11～M14.9 ）
＊福島県側の中野新道と山形県側の刈安新道は工事終了後併せて「栗子新道」と称し、
後日明治天皇から「万世大路」の名称を賜う。
- ・ 1882 年（明治 15 年）2 月 8 日（2 月 9 日）明治天皇から「万世大路」の名称を賜う。
（以降栗子新道（羽州街道）は万世大路と称され今日に至る）
- ・ 1885 年（明治 18 年）2 月 24 日 万世大路、国道 39 号（東京～山形）の一部に認定される。
（この時初めて国道に路線番号が付された（ナンバーリング）。）
- ・ 1920 年（大正 9 年）4 月 1 日 国道 5 号（東京～青森）の一部となる。
（国道 39 号から名称変更。）
- ・ 1937 年（昭和 12 年）3 月 31 日 2 代目昭和期万世大路、「昭和の大改修」完成する。
（福島～米沢間、初めて自動車交通が可能となる。昭和 12 年 5 月供用開始。）
- ・ 1952 年（昭和 27 年）12 月 4 日 国道 5 号から名称変更になり「1 級国道 13 号」となる。
（昭和 40 年 4 月 1 日「1 級国道 13 号」は「一般国道 13 号」と名称変更。）
- ・ 1966 年（昭和 41 年）5 月 29 日 現国道 13 号栗子国道（栗子ハイウェイ）開通する。
（福島市飯坂町中野字 ^{まなたいいし} 瀬沼（瀬沼）～米沢市万世町刈安字川越石 L=20.1km）
工事期間：昭和 36 年（1961 年）10 月～昭和 41 年（1966 年）5 月 （4 年 8 ヶ月）
（舗装工事完成、昭和 41 年 12 月）
- ・ 旧国道の大部分山中の約 L=16.9Km は廃道となり、一部は市道となる（全線開通時には一
部県道もあり）。また、旧国道の一部は新国道と重複している。大滝集落内の旧国道は市
道「長老沢線」となっている。
- ・ 1970 年（昭和 45 年）4 月 8 日 国道 13 号信夫山バイパス開通する（下り線）。

(開通区間は福島市森合町(もりあい はらいがわ)～福島市飯坂町平野(ひらの) L=5.7km)

「栗子国道」(栗子ハイウェイ)が完成し、福島～米沢間の新しい国道が繋がる。

(福島市飯坂町平野～福島市飯坂町中野字(まないたいし) 俎石(瀬沼) L=4.7 km分は、1968 年(昭和 43 年) 1 月 9 日に開通済み。)

- ・ 2016 年(平成 28 年) 9 月 11 日

東北中央自動車道(福島 JCT～福島大笹生 IC、L=1.46 km) 開通。

- ・ **2017 年(平成 29 年) 11 月 4 日**

E13 東北中央自動車道(福島大笹生 IC～米沢北 IC、L=35.6 km) 開通。

(平成 29 年 2 月、道路局長通達により高速道路にもナンバーリングが導入→E13 など。)

詳細については当大滝会 HP 拙著『万世大路読本』(ネット著書)を参照されたい。

<http://ootaki.xsrv.jp/banseiojidokuhon.html> (34 頁など)

大滝集落内の橋梁について

大滝集落内の橋梁(きょうりょう)関係については最新の情報により写真説明書きを修正しているものもある。

この中で特に旧西川橋については、旧国道には珍しくメタル(鋼橋)であったことから東栗子トンネル工事の際に(S38.6～S43.3)工事用道路(運搬路)となるため架換(かけかえ)られたのではないかと仮説を提示していた。しかし、福島河川国道事務所資料によれば大正 12 年(1923 年)I 型鋼桁に架換されていたようである。確かに今考えて見れば、大滝の方々どなたに伺っても物心ついた頃から高欄のない現在の状態であると仰っておられた。また、当時の栗子国道改築工事(S36.10～S41.5)関係者にお尋ねしても誰一人として架換工事をおこなったというご記憶はないようであった。このことからやはり既に架換されていたものと考えられる。

なお、大滝集落内 6 橋の諸元等については、別表「大滝集落に架かる橋」現存 6 橋(修正)に示した。

次ページに 別表「大滝集落に架かる橋」を記す。

別 表

「大滝集落に架かる橋」現存 6 橋（修正）

橋 名	明治期初代橋梁（木橋土橋）			現存橋梁（3 代目）		
	橋長	幅員	施工時期等	橋長	幅員	竣工月日等
葭澤橋	18.2m	6.4m	明治 10 年 10 月～明治 14 年 6 月（福島県）	22.4m	6.7m	昭和 53（1978）年 3 月（鋼橋、福島市役所）
大滝橋	10.9m	〃	〃	10.6m	6.3m	昭和 40 年代前半（コンクリート橋、福島市役所）
いら沢橋	10.9m	〃	〃	10.5m	5.5m	*昭和 40 年（1965）7 月（コンクリート橋、福島市役所）
入イラ澤橋	3.6m	〃	〃	3.1m	6.0m	*昭和 9 年（1934）年 8 月（コンクリート橋、福島県）
胡桃橋	18.2m	〃	〃	15.0m	6.6m	昭和 11（1936）年 3 月（コンクリート橋、福島県）
西川橋	15.5m	〃	〃	8.2m	4.5m	大正 12 年（1923）（I 型鋼桁、福島県）

注 1 （ ）内は、橋種及び事業主体。

注 2 明治期諸元等は、県庁文書「萬世大路事業誌」（明治 14 年）による。

注 3 旧大滝集落内の旧国道は現在市道長老沢線で、現存橋梁（除西川橋）の諸元（橋長・幅）、完成年月は、「福島市役所定期点検結果 H30. 3」（福島市役所 HP）による。

橋種は現地で確認、完成年月については胡桃橋及び入イラ澤橋は現地確認済み（親柱に橋名板等の残存している橋梁）。

注 4 旧西川橋（現在廃道）の諸元等は東北地方建設局福島工事事務所資料（パンフレット）による。

なお、現存旧西川橋には高欄が設置されていない（昔からなかった、大滝会員談）。

（H30. 11. 11）